

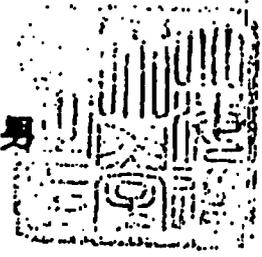
昭和57年1月21日

[Redacted]

殿

北海道大学長

有江幹男



拝復

昨年12月21日付け並びに本年1月10日付け貴信、拝見いたしました。

ご指摘の諸点は、前学長からもすでに申し上げているとおり、故児玉教授の専門的研究領域に係る問題であり、研究者個々の自由な発想と創造的な研究活動を保障することにより学術の向上を図ろうとする大学（旧制・新制を問わず）においては、学長といえども個々の研究者の研究内容には関与できない面があることをご認識賜るようお願いいたします。

もとより、学長が大学の代表者であることは言うまでもありませんが、お申し越しの諸点に関しては、実際に故児玉教授が所属し研究に従事した医学部において事実関係の調査を行い、医学部長からご回答をさし上げるのが適当と思われ、

医学部長と協働の上そのように取り計らうことにいたしておりますので、ご了承くださるようお願いいたします。

医学部内における調査はすでに前学長時代から着手されてい
ますが、故児玉教授が研究に従事した期間はかなり古く、学部
内においても当時の状況を知る者がほとんどいないなどという
事情で調査に時日を要しているとのことであります。

調査の結果について、おつて医学部長からご連絡いたします
のでよろしくようお願いいたします。

敬 具